

## 管内月間火山概況（令和5年7月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

## 噴火警報及び噴火予報の発表状況（7月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山
	活火山であることに留意	恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

## 各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

## 岩木山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 八甲田山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 十和田 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

今期間、火山性地震の一時的な増加がありましたが、その他の火山活動に特段の変化は認められません。

## 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

GNSS連続観測で認められていた2020年中頃からの秋田焼山を挟む基線の伸びの変化は、2022年終わり頃から鈍化しています。地震活動や噴気、地熱域等には特段の変化はみられませんが、今後の火山活動の推移に留意してください。

## 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

今期間、火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。そのうち女岳付近では2015年頃にかけて地熱域の拡大がみられ、その後大きな変化は認められていませんが、地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していることから、今後の火山活動の推移に留意が必要です。



**鳥海山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

**栗駒山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

**蔵王山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

**吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

大穴火口付近では、低周波地震の発生頻度が再び高くなっています。また、大穴火口浅部の緩やかな膨張を示唆する変化が認められています。大穴火口周辺浅部の温度上昇を示唆する変化等も引き続きみられるなど、浅部の熱水活動がやや活発になっていますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

**安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

**磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

今期間、火山性地震が多い状態で経過し、6日には一時的に火山性地震の増加がみされました。GNSS連続観測では、2022年後半から山体膨張を示すわずかな変化が認められています。今後の火山活動の推移に留意してください。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報警報事項に変更はありません。

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

---

この管内月間火山概況は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の管内月間火山概況（令和5年8月分）は令和5年9月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。